

■公共空間

- 1階 - ヒロティナ広場
- 2-3階 - 教育センター
支援センター
- 4-5階 - 店舗
交流センター
支援相談室

- 教育センター
- a - 教室1
 - b - 教室2
 - c - 事務室1
 - d - 事務室2

- 支援センター
- e - 事務室
 - f - 支援申請室
 - g - 管理室

- 支援相談室
- h - 相談室管理室
 - i-m - 個別相談室

- 店舗
- n - サロン
 - o - 食堂厨房
 - p - レストラン厨房
 - q - 飲食フロア
 - r - カフェ厨房
 - s,t - 雑貨屋
 - u - 洋服屋

- 交流センター
- v-u - 交流スペース

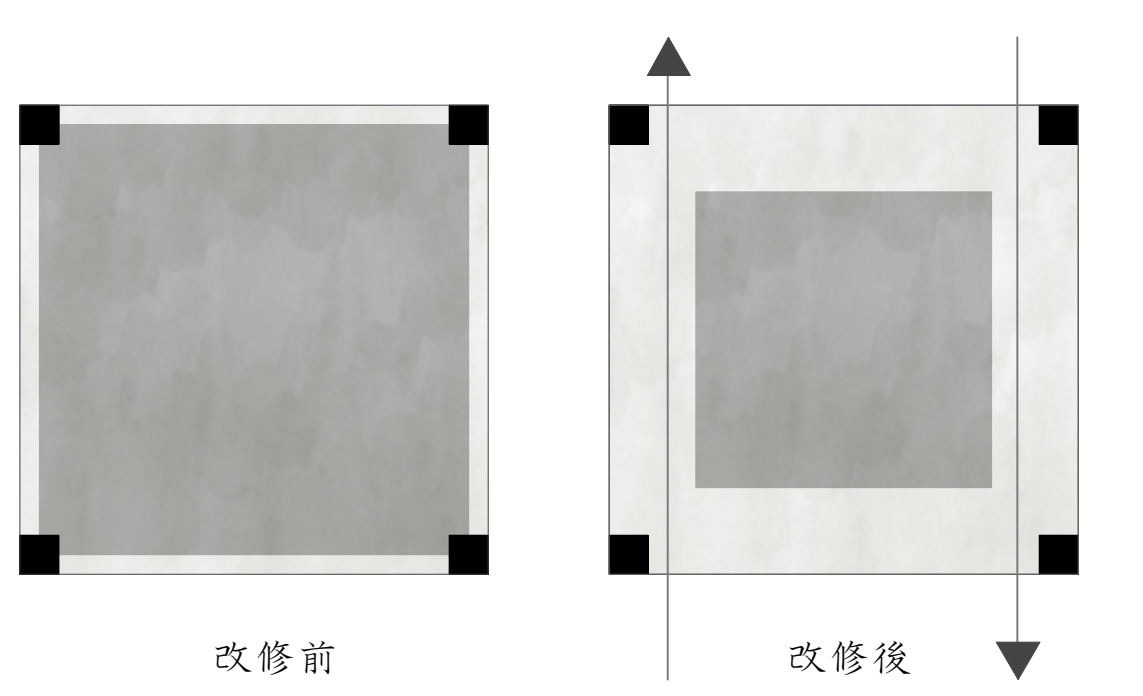
2階平面図 S=1:500

3階平面図 S=1:500

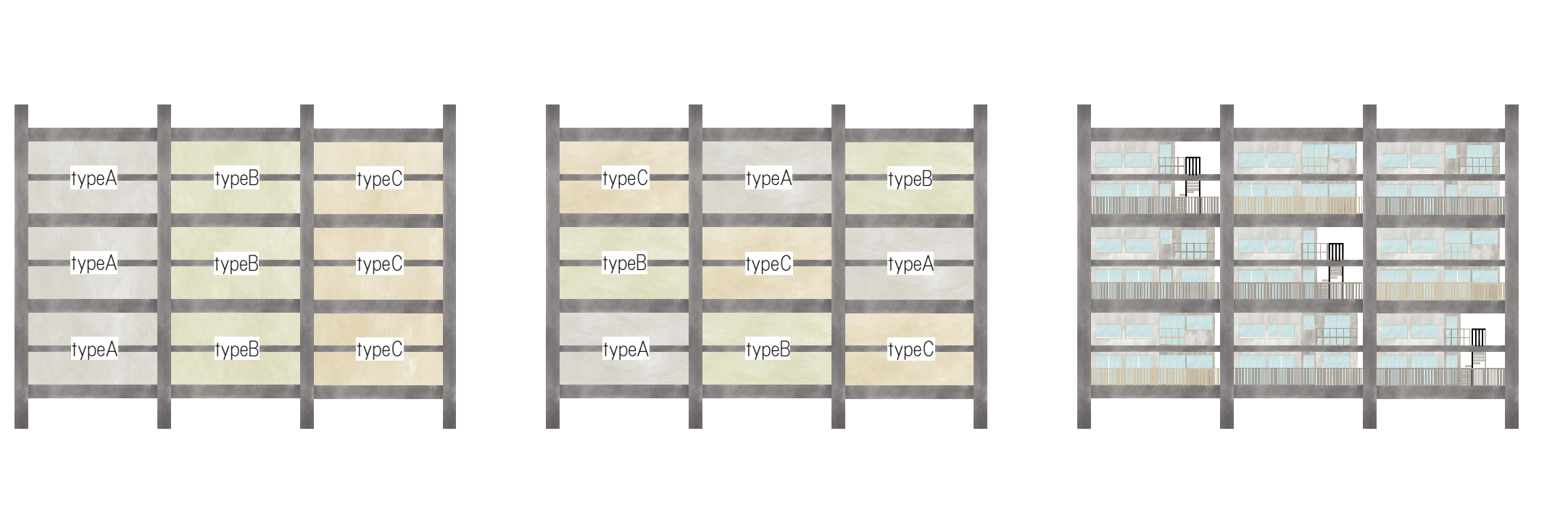
4階平面図 S=1:500

5階平面図 S=1:500

■住居



改修前の基町高層アパートは、9900×9900に配置された柱を構造体として、各階にスラブがあり、4本の柱内いっばいに壁が取り付けられ、住居タイプが配置されている。このような密度の濃さにより、大きな圧迫感と、住居の窮屈さが感じられる。そこで、柱内いっばいに設けられていた壁を4段ともに後退させ、柱内の平面空間に余裕を持たせる。これにより、圧迫感を低減させ、空間に余裕が出てくる。



集合住宅の住居タイプの配置は、統一性がある。よって、ファサードにも統一性が現れ、単調なデザインとなる。

改修後の基町高層アパートは、プランとファサードの異なる3つの住居タイプを横にずらし、ファサードにリズムをつくる。

減築と壁の後退により空間ができ、これまで感じていた壁のような圧迫感はなくなくなる。また、ところどころに建物の見え隠れする。

<p>typeA</p> <p>2LDK 49.75㎡ 94.0㎡ 片層+子 学生シェアハウス</p>	<p>地下階平面図 S=1:150</p>	<p>非地下階平面図 S=1:150</p>	<p>南側立面図 S=1:150</p>	<p>A-A' 断面図 S=1:150</p>
<p>typeB</p> <p>3LDK 63.15㎡ 126.00㎡ 片層+子 学生シェアハウス</p>	<p>地下階平面図 S=1:150</p>	<p>非地下階平面図 S=1:150</p>	<p>南側立面図 S=1:150</p>	<p>B-B' 断面図 S=1:150</p>
<p>typeC</p> <p>1LDK 44.58㎡ 89.16㎡ 片層+子 住居(学生)</p>	<p>地下階平面図 S=1:150</p>	<p>非地下階平面図 S=1:150</p>	<p>南側立面図 S=1:150</p>	<p>C-C' 断面図 S=1:150</p>